

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 49 号

第 49 週 (12月4日 ~ 12月10日)

発行年月日:平成18年(2006年) 12月 14日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

感染性胃腸炎の流行発生警報の発生は持続 腸管出血性大腸菌感染症の発生は54例で過去最高

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(11月27日~12月3日)の報告数より少なくなっています。特に感染性胃腸炎で減少し定点当たり患者数は22.8となっておりますが、先週に引き続き「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」による**流行発生警報**が発生しています。また、水痘については彦根保健所管内で先週に引き続き**流行発生警報**が発生し、東近江保健所管内で**流行発生注意報**が発生しています。さらに、伝染性紅斑については彦根保健所管内で**流行発生警報**が発生しています。

今週増加した疾患はインフルエンザ、水痘、伝染性紅斑(リンゴ病)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等です。(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症2名ならびに五類感染症の劇症型溶血性レンサ球菌感染症1名および破傷風1名の届出がありました。

感染性胃腸炎の警報発生状況(第46~49週)

週	滋賀県		大津保健所		草津保健所		甲賀保健所		東近江保健所		彦根保健所		長浜保健所		高島保健所	
	定点当たり患者数	警報発生														
46週	18.66		19.00		20.50		9.25		38.60		3.00		8.00		33.50	
47週	22.50		19.86		27.33		11.00		44.66		6.50		12.00		38.00	
48週	29.63		30.71		36.50		12.50		38.60		28.75		25.75		26.50	
49週	22.78		17.43		21.83		18.25		32.20		30.00		21.50		18.00	

:警報発生中

水痘の警報・注意報発生状況(第48~49週)

週	滋賀県		大津保健所		草津保健所		甲賀保健所		東近江保健所		彦根保健所		長浜保健所		高島保健所	
	定点当たり患者数	警報発生														
48週	2.34		2.00		1.00		0.75		3.40		7.25		1.50		0	
49週	2.47		1.43		0.17		1.00		6.80		5.50		1.50		1.00	

:警報発生中

:注意報発生中

伝染性紅斑の警報発生状況(第49週)

週	滋賀県		大津保健所		草津保健所		甲賀保健所		東近江保健所		彦根保健所		長浜保健所		高島保健所	
	定点当たり患者数	警報発生														
49週	0.75		0.29		0.67		0.25		0.60		2.75		0		1.50	

:警報発生中

<<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定しています。その基準値を超えた時に流行発生警報あるいは流行発生注意報という表現により流行状況の指標を示しているもので、都道府県として発令される「警報」、「注意報」とは異なります。

流行発生警報

感染性胃腸炎-----定点当たり患者数が**20人以上**という基準値を超えた時に出され、それ以降、定点当たり患者数が**12人以下**になるまで継続して出されます。

水痘-----定点当たり患者数が**7人以上**という基準値を超えた時に出され、それ以降、定点当たり患者数が**4人以下**になるまで継続して出されます。

伝染性紅斑-----定点当たり患者数が**2人以上**という基準値を超えた時に出され、それ以降、定点当たり患者数が**1人以下**になるまで継続して出されます。

流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

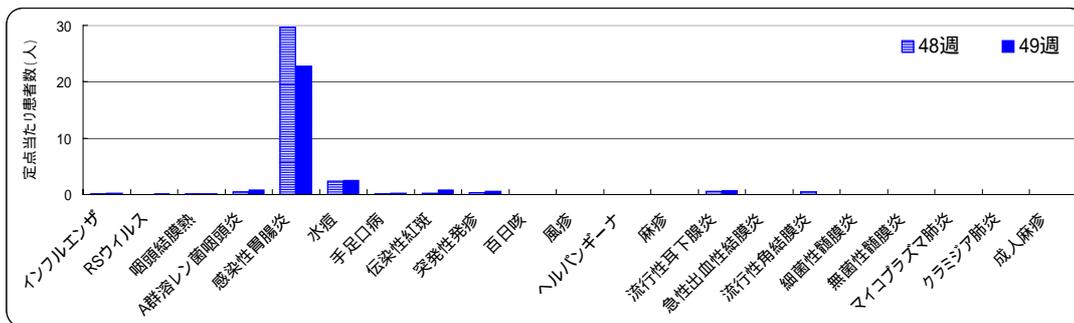
流行発生注意報

水痘-----定点当たり患者数が**4人以上**という基準値を超えた時に出されます。

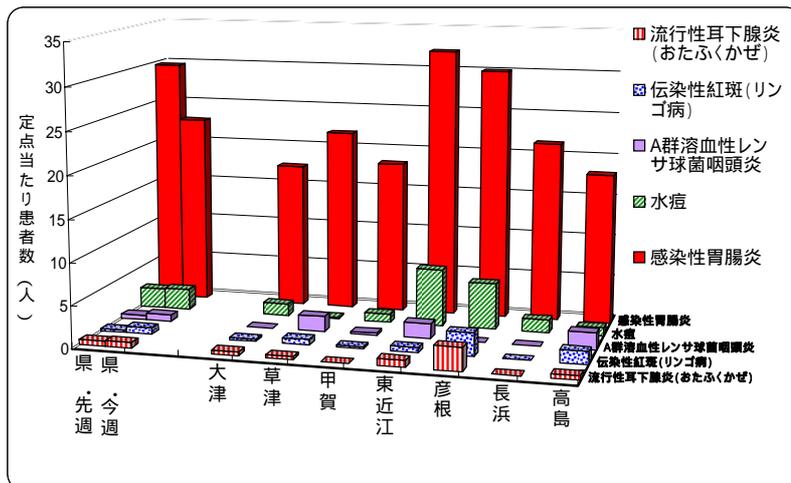
流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide06.html>

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)

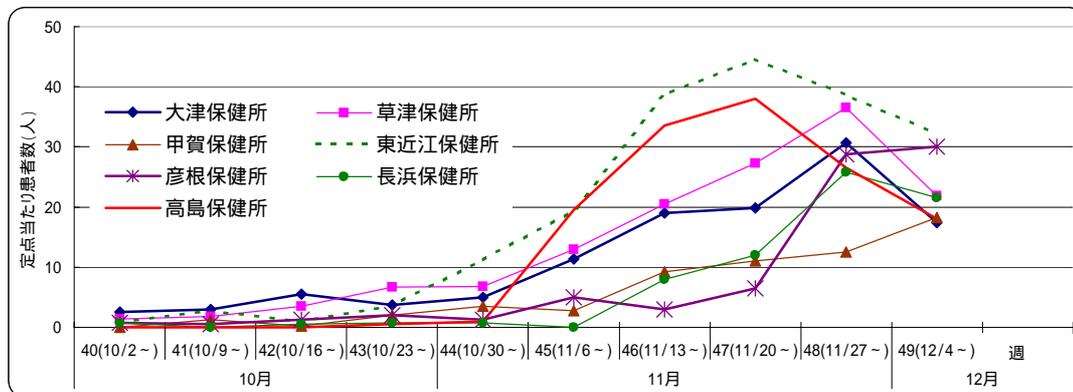


上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第49週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、感染性胃腸炎、水痘、A群溶レン菌咽頭炎、伝染性紅斑(リンゴ病)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の順に多くなっています。水痘は第43週(10/23~10/29)以降増加傾向を示し、東近江および彦根で多くなっています。

感染性胃腸炎の保健所管内別発生状況(平成18年第40~49週、10/2~12/10)



感染症のミニ知識 ~ 水痘 ~

水痘带状疱疹ウイルスに感染することにより起こる疾患で、罹患年齢は1~5歳に多くほとんどは9歳以下となっています。流行時期は感染症発生動向調査によると、12~7月に多くなり8~11月には減少しています。また、予防には水痘ワクチンの接種(任意接種)が推奨されています。

- ・感染様式: 直接接触等によるヒト-ヒト感染
- ・潜伏期: 10~20日(通常14~16日)
- ・臨床症状: 軽度の発熱、全身倦怠感、発疹(全身性で掻痒感を伴う)
- ・治療: 外用薬の使用
- ・予防: 感染源(患者、水疱内容物、気道分泌物等)との接触を避ける、水痘ワクチンの接種
- ・合併症: 15歳以上および1歳以下でやや高くなります(健康な小児にはあまりみられません)。症状としては、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、中枢神経合併症(無菌性髄膜炎、脳炎など種々)などがあります。
- ・学校保健法における取り扱い: すべての発疹が痂皮化するまでは出席停止となっています(病状により、伝染のおそれがない場合は除きます)。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (49週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (49週)	全国 (49週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	0	1	46	0	54
	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 6	460	^{(*)3} 7	556
三類感染症	腸チフス	0	0	70	0	50
	腸管出血性大腸菌感染症	2	54	3,762	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	2	63	0	40
	A型肝炎	0	21	307	1	168
	オウム病	0	0	22	1	34
	デング熱	0	0	53	1	73
	マラリア	0	0	58	0	66
	レジオネラ症	0	11	479	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	8	693	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	263	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	161	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	103	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	8	1,222	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	82	0	81
	梅毒	0	4	584	0	555
	破傷風	1	1	111	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	73	2	65
	急性脳炎	0	1	150	2	180

*1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

*3:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第49週(12/4～12/10) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: オウム病 1例	五類感染症: クロイツフェルト・ヤコブ病 2例
二類感染症: 細菌性赤痢 3例	つつが虫病 20例	劇症型溶血性
腸チフス 2例	レジオネラ症 7例	レンサ球菌感染症 3例
パラチフス 1例	五類感染症: アメーバ赤痢 8例	後天性免疫不全症候群 10例
三類感染症: 腸管出血性	梅毒 10例	バンコマイシン耐性
大腸菌感染症 39例	破傷風 2例	腸球菌感染症 1例

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第44～49週、10/30～12/10)

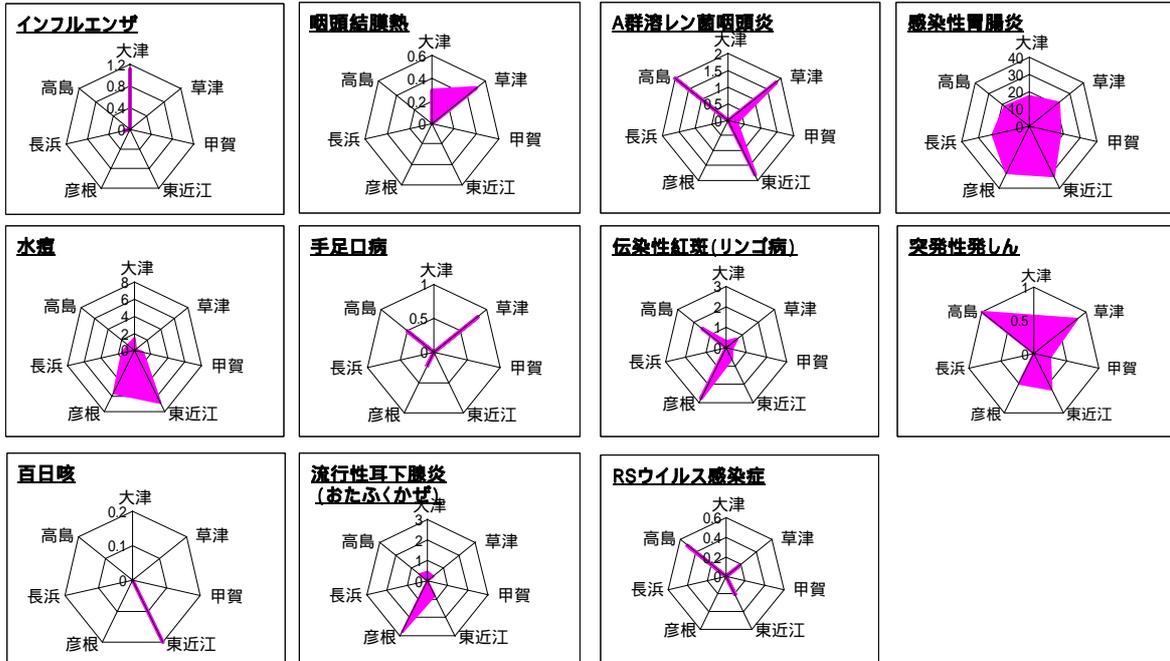
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						
	44週	45週	46週	47週	48週	49週	週
	(10/30～)	(11/6～)	(11/13～)	(11/20～)	(11/27～)	(12/4～)	45 46 47 48 49
インフルエンザ	0	0	0.08	0.06	0.09	0.25	
RSウイルス感染症	0.03	0.06	0	0.03	0.03	0.09	
咽頭結膜熱	0.31	0.59	0.16	0.09	0.13	0.16	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.31	0.50	0.53	0.66	0.50	0.78	
感染性胃腸炎	4.88	10.09	18.66	22.50	29.63	22.78	
水痘	0.94	1.03	1.28	1.75	2.34	2.47	
手足口病	0.31	0.31	0.28	0.13	0.16	0.22	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.25	0.19	0.22	0.22	0.28	0.75	
突発性発しん	0.47	0.50	0.44	0.38	0.31	0.53	
百日咳	0	0.03	0	0	0	0.03	
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0.03	0	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.38	0.47	0.44	0.41	0.56	0.66	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.29	0	0.43	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.14	0	0.14	0.14	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第49週, 12/4～12/10)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)	
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島		
インフルエンザ	0.25	1.09	0	0	0	0	0.14	0		
RSウイルス感染症	0.09	0	0.17	0	0.20	0	0	0.50		
咽頭結膜熱	0.16	0.29	0.50	0	0	0	0	0		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.78	0	1.83	0.25	1.80	0	0	2.00		
感染性胃腸炎	22.78	17.43	21.83	18.25	32.20	30.00	21.50	18.00		
水痘	2.47	1.43	0.17	1.00	6.80	5.50	1.50	1.00		
手足口病	0.22	0	0.83	0	0	0.25	0	0.50		
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.75	0.29	0.67	0.25	0.60	2.75	0	1.50		
突発性発しん	0.53	0.57	0.83	0.25	0.60	0.50	0	1.00		
百日咳	0.03	0	0	0	0.20	0	0	0		
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0		
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0		
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0		
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.66	0.43	0.33	0	0.80	2.75	0	0.50		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
流行性角結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0		
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0		

■ は定点当たり患者数が先週より増加、
■ は定点当たり患者数が非常に多い状態
 0 5 10 15 20 25
 定点当たり患者数(人)

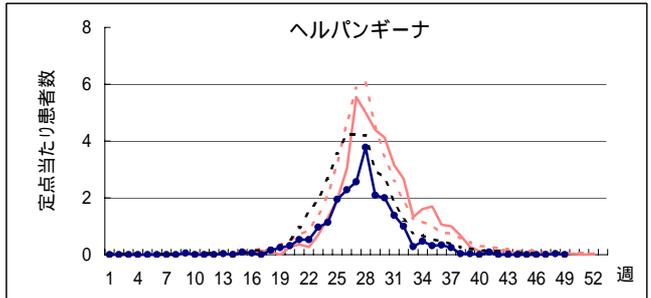
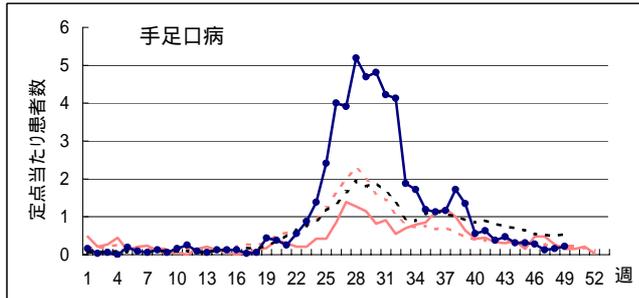
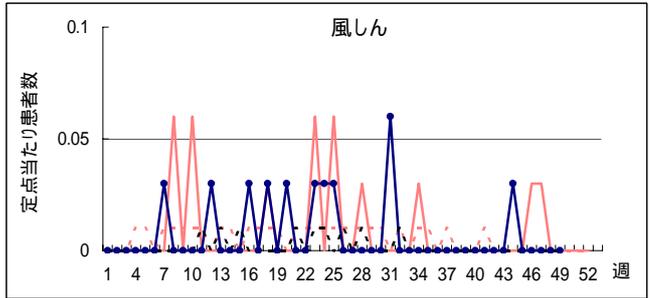
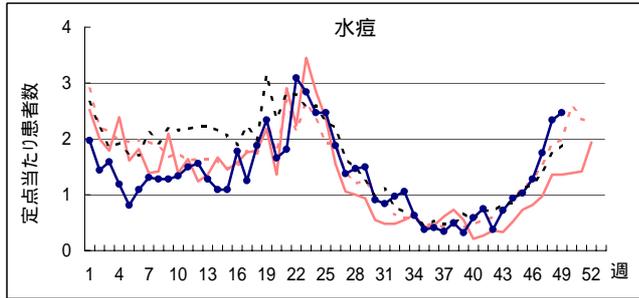
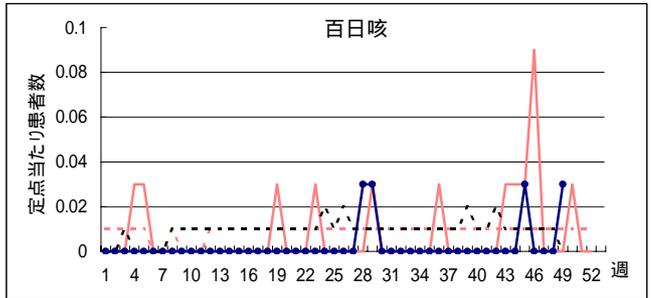
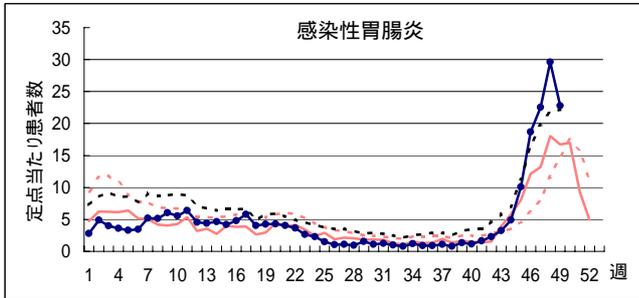
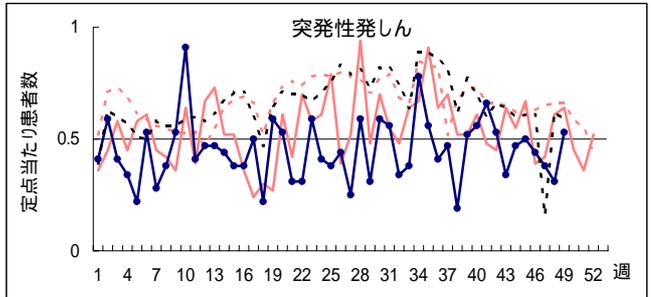
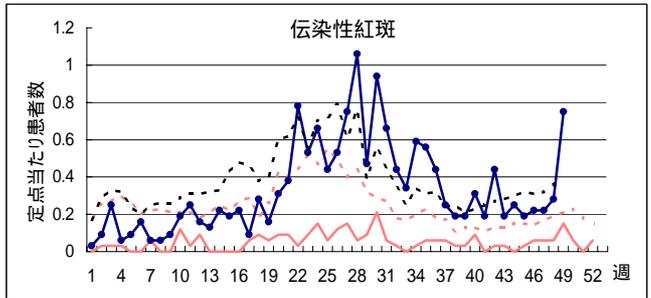
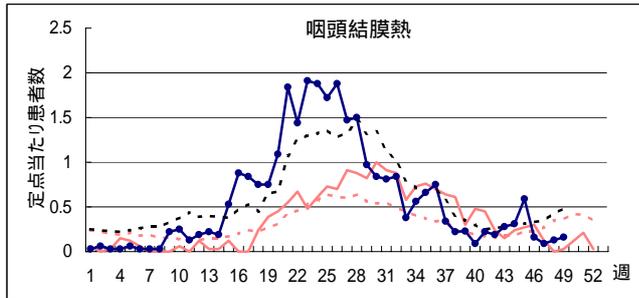
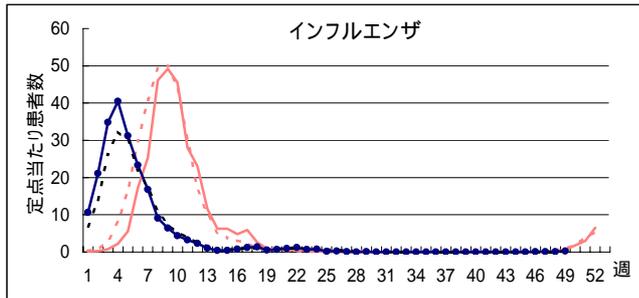
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

- インフルエンザ-----大津および長浜から報告されており、大津では先週より多くなっています。
- 咽頭結膜熱-----大津および草津から報告されており、県全体では先週よりやや多くなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎---- 草津および高島で先週よりかなり多くなっています。
- 感染性胃腸炎-----県全体では先週より減少していますが、甲賀および彦根では先週より増加しています。今後の発生状況に十分な注意が必要です。
- 水痘-----県全体では先週よりさらに増加し、昨年同時期よりかなり多く発生しています。保健所管内別では東近江および彦根で多くなっており、年齢別では1～3歳に多く発生しています。
- 手足口病-----草津、彦根および高島から報告されています。
- 伝染性紅斑-----彦根で先週よりかなり多くなっており、流行発生警報が発生しています。
- 突発性発しん-----県全体では先週よりやや多くなっています。
- 百日咳-----東近江から報告されています。
- 流行性耳下腺炎-----彦根で先週よりかなり多くなっています。
- RSウイルス感染症-----草津、東近江および高島から報告されています。

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第49週、H18.1.2～H18.12.10)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第49週、H18.1.2～H18.12.10)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●
全国 - - - - -

